

通級生は、日本での生活や日本語の習得に希望と不安をもって来日します。江南教室では彼らを段階的に支援すると共に、在籍校への繋ぎの場となるよう10週の間に通級の様子を伝えたり、通級修了後の支援体制を共に考えたりすることを大切にしています。今号は、在籍校を巡回訪問する教科指導員のコラムを掲載します。

在籍校の関わりのお大きさ～外国人児童生徒教科指導員 高崎裕司



江南教室通級中の10週間に2回の在籍校訪問をさせていただいています。生徒は毎週金曜日に在籍校に登校しますので、そのタイミングで訪問し、学級での様子や取り出し授業での様子など見させていただいています。また、担任の先生や管理職、ときには養護教諭とも連携を図り、生徒の情報や外国人生徒の指導の充実に向け活動をしています。

訪問時には、先生方の不安と熱意とが入り混じった思いを感じます。日本語がわからない生徒がクラスに入ってくることに不慣れですから当然です。私も以前勤務した学校では随分言葉の壁に苦労しましたから、気持ちはよくわかります。

一方で生徒のほうはどうでしょうか。これには個人差があります。早い段階から打ち解けることができる生徒もいれば、なかなか馴染めずにじっとしていたり、外国人同士でいることが多かったりする生徒もいます。

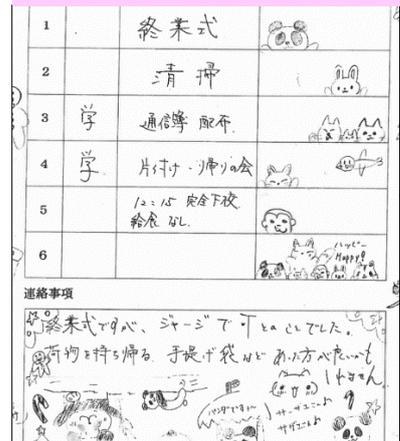
先生方は戸惑っていることもありますが、ある先生から「子供たちに任せたほうがいい表情になることがある」という言葉を聞きました。これは、先生が何とか会話しようと、ポケットやGoogle翻訳を駆使して、コミュニケーションを図ろうとさせていただいています。その様子を見た生徒たちが、自らも積極的に外国人生徒に話しかけたり、ボディランゲージで会話したり、メッセージを書いて渡したり。周りの生徒たちが、自ら様々なアクションを起こしている状況が生まれたということです。すると、外国人生徒の表情が生き生きとし笑顔になったということです。

外国人生徒の受け入れのために大事なことは、子供同士の関係の中に居場所があるということが大きな要因になると思いました。訪問時には10週間後の指導体制の構築もお願いしています。各学校で大変熱心に作成していただき感謝の気持ちでいっぱいです。今後も皆さんと一緒に外国人生徒の日本での浜松での教育が円滑に進むことができるよう微力ながら尽力したいと思います。よろしく願いいたします。

PS. 昨年度初期に江南教室を修了した生徒さんの様子もフォローしています。中にはもうほとんど日本語で会話が成立し授業参加がしっかりできている生徒もいるとのこと。

一方で、なかなか厳しいねという生徒もいるようです。私たちにできることがあればお手伝いします。

クラスメートから手書きの金曜予定が届くと、にこにここと何度も読み返しています。



修了式後の打ち合わせで、通級修了後の指導体制を示させていただいています。

1 主に支援にあたる教員
 ◇外国人児童生徒教科指導員(毎週 水・金 午前4時間勤務)
 ◇英語科教員(外国人支援担当)
 ◇学年職員

2 授業における支援の方法
 ① 取り出し授業を実施する教科：国語
 ② 内容に応じて取り出し、入り込み：数学 社会 理科 道徳 学活
 ③ 通常授業を受ける教科：音楽 美術 技術 家庭 保健体育 英語 総合

教科	方法	主な内容
国語	①	主に日本語の学習(ひらがな、カタカナ、漢字の読み書き)
社会	②	地理的分野は入り込みで語句等を確認 歴史的分野は取り出しをして歴史の流れの基本を確認
数学	②	教材を用意してのドリル等基礎学習(四則計算、正の数の数)
理科	②	ポケトークを活用して授業に参加 内容に応じて入り込みを実施
音楽	③	ポケトークを活用して授業に参加
美術	③	ポケトークを活用して授業に参加
保健体育	③	他の生徒と同じように授業に参加
技術・家庭	③	ポケトークを活用して授業に参加
英語	③	他の生徒と同じように授業に参加
学活	②	内容に応じて入り込み、取り出しで日本語学習
総合	③	内容に応じて入り込み、取り出しで日本語学習
	②	ポケトークを活用して授業に参加

◇1年2組時間割 ◇外国人児童生徒教科支援員 ◇英語科教員 ◇学年職員

	月	火	水	木	金
1校時	英	国	社	英	英
2校時	英	技	国	英	英
3校時	音	技	数	英	国
4校時	理	道	理	社	体
5校時	社	英	学	理	総
6校時	英	体		体	総